


指定校番号	29001	学級活動	児童会	○	クラブ活動	学校行事	小学校用
-------	-------	------	-----	---	-------	------	------

## 平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立阿賀小学校	校長	山下 伸一	生徒指導主事	堀江 大志
-----	----------	----	-------	--------	-------

<b>取組事例名</b>	『AAA（あがしょう あんぜんに あるこう）キャンペーン』				
<b>取組のねらい</b>	『キーワード 凡事徹底』				
<p>「ろうかを走る」といった小さな問題行動に対して、適切かつ徹底して指導することにより、いじめ等の大きな問題行動に向かわせないよう、規範意識のさらなる向上を目指す。</p> <p>「ろうかを歩く」という行動をとることで、給食を教室前に運んだり、片づけたりする調理員さんへの感謝の気持ち、思いやりの心を示す。</p>					
<b>身に付させたい資質・能力</b>	「思いやり・感謝」「自主・自立」				
<b>取組の具体的内容</b>	『キーワード 児童の発想を活かす』				
<p>取組の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 期 間 春, 夏, 秋, 冬の季節ごとに 1 回実施。一回のキャンペーンは, 5 日間。</li> <li>○ 実施時間 昼休憩</li> <li>○ 調査場所 各ワークスペース, ユーカリ広場前廊下, 玄関, 下足前広場</li> <li>○ 調査方法 笑顔委員会の児童が, 廊下等を走っている児童に声をかけ, 「学級名, 氏名」を調査用紙に記入する。それを毎日集計し, 優秀な学級 (走っている児童の少ない学級) を昼の放送で伝える。</li> <li>○ 事 後 期間中に, 目標 (3 人×5 日以下) を達成した学級を表彰する。</li> <li>○ 目 標 全校で 1 日に歩かない児童 5 4 人以下を目標に設定。(昨年度最小の 5 7 人を基準に設定) 各学級の目標は 1 日 3 人以下とする。</li> </ul> <p>※ 名称 (AAA) については, 取組をより浸透させるため, 覚えやすく, 耳や目につくものになるよう, 笑顔委員会の児童が考えた。</p> <p>※ 調査場所, 調査時刻についても, 笑顔委員会の児童が本校の現状を基に, 設定した。</p>					
					
<b>取組の課題・創意工夫</b>	『キーワード 楽しむ』				
<p>取組を重ねるごとに成果が上がり, ろうかを歩こうという意識が少しずつ浸透・定着していった。反面, 取組に対してのマンネリ感が出てきた。そこで, 笑顔委員会の児童と話し合い, 今年度の「冬の AAA キャンペーン」は「阿賀小冬の陣」として次のようにチーム対抗形式で行うことになった。</p> <p style="text-align: center;">「阿賀小冬の陣 (冬の AAA キャンペーン)」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 期 間 1 2 月 1 1 日 (月), 1 3 日 (水), 1 4 日 (木), 1 8 日 (月), 1 9 日 (火) の昼休憩</li> <li>○ 調査場所 各ワークスペース, ユーカリ広場前廊下, 玄関, 下足前広場</li> <li>○ 調査方法 笑顔委員会児童が, 廊下等を走っている児童に声をかけ, 「学級名, 氏名」を調査用紙に記入する。</li> </ul>					

○ チーム戦

「6年と1年」「5年と2年」「4年と3年」の3チームで競い合う。走った児童の人数が5日間を通して最も少なかったチームを勝ちとする。チームの中で1日に走る児童が0人だった学級があれば、ボーナスポイントとしてそのチームの走った児童の総計から5名減らす。2学級あれば10名減らす。勝利した学年には、大型賞状を授与する。

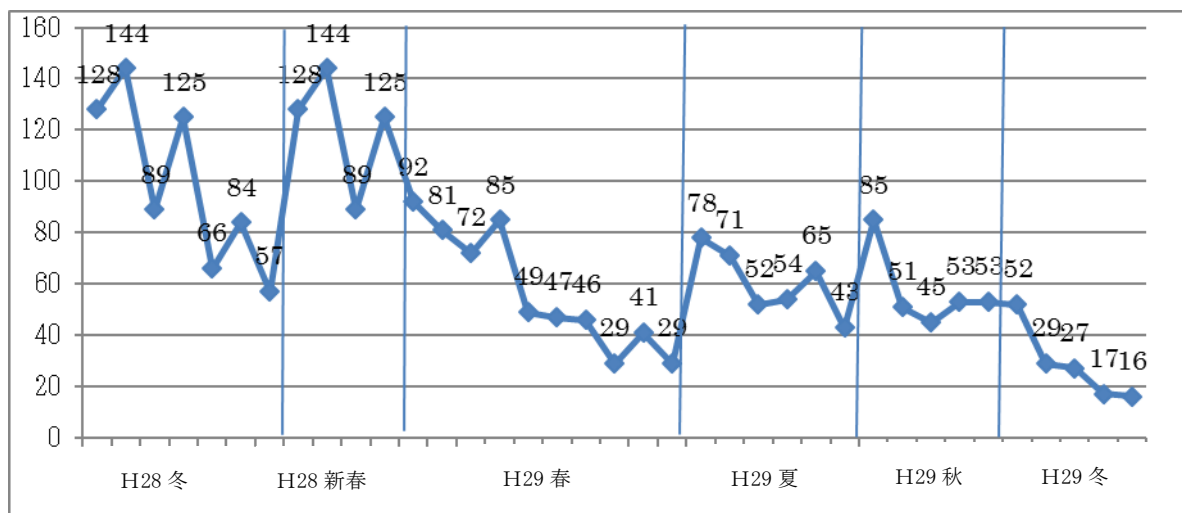
○ 大将

上学年児童の中から、チームで1名「大将」を決める。「大将」は、放送等を通し、チームを鼓舞したり、代表として表彰やインタビューを受けたりする。



**取組の成果（効果）『キーワード 激減』**

「ろうかを走っていた児童の数」



ろうかを走る児童は、最大144名から16名まで大きく減少した。特に、学年ごとのチーム対抗を取り入れた「H29冬」では、走る児童0人の学級が10学級以上になるなど、極めて大きな効果があった。キャンペーンの期間中だけでなく、その後においても、その姿が継続した。

**今後の展開『キーワード 持続可能な取組』**

子どもたちのアイデアを活かし、取組の形式を工夫したことでマンネリ化を防ぐことができた。ねらいであった児童の規範意識についても、教職員のアンケート（「児童は阿賀小のきまりを守ることができる」）で肯定的な回答をした教職員が100%となるなど、その向上を実感していることが分かった。非常に効果のある取組であったが、今後はその実施が目的になることのないよう児童の実態、他の取組との優先順位等を考慮し、見極めていきたい。

**他校へのアドバイス『キーワード 一点突破』**

「ろうかを走らない」という内容に特化し、学校全体で取り組むことで規範意識の向上につなげることができた。ポイントを絞った取組は結果の充実を生み、その成果は他の分野にも広がっていくことを実感することができた。